

平成 28 年度

病害虫発生予察情報 第4号 5月月報

北海道病害虫防除所 平成 28 年6月 15 日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>
Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区気象台発表 北海道地方気象速報

－『高温・少雨・多照』晴れた日多く、暖かい空気に覆われ、歴代1位の高温－

この期間の天気は、上旬は短い周期で変わり、中旬以降は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。また、暖かい空気に覆われやすかったため、気温は高く経過し、特に19日から23日にかけては真夏日となった所や、5月の日最高気温1位の記録を更新した所もあった。気温は上旬は平年より高く、中旬と下旬はかなり高く、月平均気温もかなり高かった。降水量は上旬は平年より少なく、月降水量も少なかった。日照時間は中旬は平年よりかなり多く、下旬は多く、月間日照時間もかなり多かった。なお、1946年の統計開始以降、日本海側、太平洋側及び北海道地方の5月の気温は最も高かった。また、1961年の統計開始以降、下旬の太平洋側の気温は最も高かった。

上旬：1日は高気圧に覆われて晴れた所が多かった。2日は高気圧に覆われて晴れたが、前線の影響で夜には雨の降った所があった。3日は高気圧の張り出しの中で概ね晴れた。4日は前線を伴った低気圧の影響で全道的に雨が降った。日降水量はえりも町目黒で55.5mmなど。5日は低気圧が通過して広い範囲で雨が降ったが、太平洋側東部などでは晴れた。6日は高気圧の張り出しの中で広い範囲で晴れたが、朝晩は気圧の谷の影響で日本海側などで雨が降った。7日は前線を伴った低気圧が通過して全道的に雨が降った。日降水量は福島町千軒で33.0mmなど。8日は気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、次第に高気圧の張り出しの中となり全道的に晴れた。9日は高気圧の張り出しの中で全道的に晴れた。10日は高気圧の張り出しの中で日本海側北部やオホーツク海側では晴れたが、気圧の谷の影響で太平洋側西部など雨の降った所もあった。

中旬：11～12日は低気圧が通過して全道的に雨が降ったが、12日は太平洋側東部などで晴れた。日降水量は11日にえりも町目黒で73.5mmなど。13～15日は高気圧に覆われて全道的に晴れた。16日は前線を伴った低気圧の影響で夜には日本海側南部などで雨が降ったが、日中は晴れた所もあった。17日は前線が通過して広い範囲で雨が降ったが、次第に高気圧の張り出しの中となり晴れた所が多かった。18～20日は高気圧に覆われて全道的に晴れた。

下旬：21～23日は高気圧に覆われて全道的に晴れた。24日は高気圧に覆われてオホーツク海側を中心に晴れた所が多かった。25日は気圧の谷の影響で全道的に雨が降ったが、晴れた所もあった。26日は気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、晴れた所も多かった。27日は気圧の谷の影響で広い範囲で雨が降ったが、次第に高気圧の張り出しの中となり全道的に晴れた。28日は高気圧の張り出しの中で概ね晴れたが、気圧の谷の影響で夜には雨の降った所が多かった。29～30日は高気圧に覆われて概ね晴れたが、雨の降った所もあった。31日は前線を伴った低気圧の影響で全道的に雨が降った。日降水量は鶴居で57.5mmなど。

気象表

(気温は平年差(℃)、降水量・日照時間は比(%)を示す)

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道 22 地点平均	+2.5	か高	77	少	125	か多
日本海側 10 地点平均	+2.4	か高	79	少	120	多
オホーツク海側4地点平均	+3.0	か高	62	少	134	か多
太平洋側8地点平均	+2.5	か高	81	少	128	か多

(注)階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010 の 30 年間)における各階級の出現率が 1:1:1 となるように決めてあります。なお、平年値作成期間内の上位、下位 10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」、「か→かなり」で表します。

Ⅱ. 病害虫発生概況

A. 水稻

1. ヒメトビウンカ 発生期 やや早（第1回成虫） 発生量 やや多

予察田の畦畔すくい取りによる幼虫の捕獲頭数は、長沼町では平年並で、比布町では平年より少なかった。北斗市では捕獲が認められなかった。畦畔すくい取りによる第1回成虫の初発期は、長沼町で5月1半旬（平年：5月5半旬）と平年より早く、比布町で5月4半旬（平年：5月5半旬）で平年よりやや早く、北斗市で5月4半旬（平年：5月3半旬）と平年よりやや遅かった。成虫の捕獲頭数は、長沼町および比布町で平年より多く、北斗市で平年並であった。

畦畔におけるヒメトビウンカのすくい取り数

月・半旬	長沼町				比布町				北斗市			
	幼虫		成虫		幼虫		成虫		幼虫		成虫	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5月1半旬	0	5.8	2.0	5.0	10	17.7	0	0.6	0	0.0	0	0.3
2半旬	11.3	3.8	71.3	9.7	0	11.7	0	0.1	0	0.0	0	0.3
3半旬	2.5	2.2	7.5	16.6	0	8.0	0	2.4	0	0.3	0	1.8
4半旬	0	1.0	10.0	23.2	0	9.4	55	5.3	0	0.0	2.5	1.3
5半旬	0	1.0	8.8	4.1	0	7.1	90	18.1	0	0.0	0	0.8
6半旬	0	0.0	1.3	3.5	0	2.5	70	16.8	0	0.0	0	0.0
平年数	4		4		10		10		10		10	

注)20 回振り×5 日分換算値

B. 秋まき小麦

1. 赤さび病 発生期 早 発生量 並

予察ほの感受性品種における初発期は、長沼町および芽室町の「ホクシン」、訓子府町の「きたもえ」ともに平年より早かった。発生量は、すべての地点において平年並であった。主要品種「きたほなみ」の発生量も、すべての地点において平年並だった。

一般ほにおける巡回調査結果では、全 113 地点において発生は認められていない。

予察ほにおける赤さび病の初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	ホクシン	4月14日	4月28日	10
	きたほなみ	4月18日	5月3日	6
芽室町	ホクシン	4月22日	5月5日	10
	きたほなみ	4月22日	5月10日	7
訓子府町	きたもえ	4月25日	5月25日	7
	きたほなみ	4月27日	5月13日	7

予察ほにおける赤さび病の発生状況

地点	品種名	調査葉位	病斑面積率(%)					
			5 月 2 半旬		5 月 4 半旬		5 月 6 半旬	
			本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	ホクシン	全葉	0.01	0.04	0.04	0.14	0.26	0.80
		最上位葉	0	0	0	0	0.02	0.020
		最上-1 葉	0	0	0	0.01	0.24	0.27
	きたほなみ	全葉	0.02	0.02	0.05	0.10	0.12	0.16
		最上位葉	0	0	0	0	0	0.01
		最上-1 葉	0	0.002	0	0	0.04	0.03
芽室町	ホクシン	全葉	0.004	0.01	0.03	0.03	0.10	0.04
		最上位葉	0	0	0	0	0	0
		最上-1 葉	0	0.001	0	0.003	0.002	0.003
	きたほなみ	全葉	0.004	0.02	0.003	0.02	0.03	0.01
		最上位葉	0	0	0	0	0	0
		最上-1 葉	0	0	0	0.01	0	0.001
訓子府町	きたもえ	全葉	0.003	0.004	0	0.004	0.002	0.06
		最上位葉	0	0	0	0	0	0
		最上-1 葉	0	0	0	0	0	0
	きたほなみ	全葉	0.001	0.004	0	0.001	0.001	0.01
		最上位葉	0	0	0	0	0	0
		最上-1 葉	0	0	0	0	0	0

一般ほにおける赤さび病の巡回調査結果

普及センター		病葉率(%)	
		5 月	
		3 半旬	6 半旬
空知	本所	0	0
	南東部	0	0
	南西部	0	0
	中空知	0	0
	北空知	0	0
石狩	本所	0	0
	北部	0	0
後志	本所	0	0
胆振	本所	0	0
	東胆振	0	0

普及センター		病葉率(%)	
		5 月	
		3 半旬	6 半旬
檜山	本所	0	0
	北部	0	0
上川	本所	0	0
	富良野	0	0
	大雪	0	0
	士別	0	0
	名寄	0	0
	留萌	0	0

普及センター		病葉率(%)	
		5 月	
		3 半旬	6 半旬
網走	本所	—	0
	清里	—	0
	網走	0	0
	美幌	—	0
	遠軽	—	0
	紋別	—	0
	十勝	0	0
十勝	本所	0	0
	東部	0	0
	東北部	0	0
	北部	0	0
西部	北部	0	0
	西部	0	0

注 1) —: 調査時期外のため未調査

注 2) 病葉率: 最上位葉の 1 枚下の葉の病葉率

2. うどんこ病 発生期 早 発生量 やや多

予察ほにおける感受性品種「チホクコムギ」の初発期は、長沼町および訓子府町では平年より早く、芽室町では平年よりやや早かった。発生量は、長沼町および芽室町では平年に比べやや多く、訓子府町では平年並であった。

一般ほにおける巡回調査結果では、8地点で最上位葉の1枚下の葉に発生が認められたものの、その発生量は少なかった。他の105地点では発生は認められていない。

予察ほにおけるうどんこ病の初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	チホクコムギ	4月14日	4月29日	10
	きたほなみ	4月13日	5月12日	6
芽室町	チホクコムギ	4月22日	4月26日	10
	きたほなみ	5月17日	5月10日	7
訓子府町	チホクコムギ	4月27日	5月2日	10
	きたほなみ	5月5日	5月9日	7

予察ほにおけるうどんこ病の発生状況

地点	品種名	調査葉位	病斑面積率(%)					
			5月2半旬		5月4半旬		5月6半旬	
			本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	チホクコムギ	全葉	6.14	0.70	6.67	2.80	9.53	5.07
		最上位葉	0	0.01	0	0.003	0.08	0.04
		最上-1葉	0.14	0.28	0.16	0.34	3.04	0.91
	きたほなみ	全葉	0.17	0.02	0.48	0.02	0.19	0.06
		最上位葉	0	0	0	0	0	0
		最上-1葉	0	0	0	0	0.06	0.01
芽室町	チホクコムギ	全葉	0.59	1.11	3.55	2.04	10.89	4.04
		最上位葉	0	0.06	0	0.21	0	0.34
		最上-1葉	0.05	0.62	0.39	1.23	3.86	3.29
	きたほなみ	全葉	0	0.06	0.001	0.08	0.000	0.07
		最上位葉	0	0	0	0	0	0
		最上-1葉	0	0.02	0	0.01	0	0.01
訓子府町	チホクコムギ	全葉	12.45	1.61	2.50	2.68	4.27	3.46
		最上位葉	0	0	0	0.000	0	0.01
		最上-1葉	0	0.06	0	0.14	0	0.51
	きたほなみ	全葉	0.01	0.03	0.06	0.05	0.02	0.13
		最上位葉	0	0	0	0	0	0
		最上-1葉	0	0	0	0	0	0

一般ほにおけるうどんこ病の巡回調査結果

普及センター		病葉率(%)	
		5 月	
		3 半旬	6 半旬
空知 本所	本所	0	0
	南東部	0	2.0
	南西部	0	0
	中空知	0	0
	北空知	0	0
石狩 本所	本所	0.5	17.3
	北部	0	0
後志 本所	本所	0	0
胆振 本所	本所	0	0
	東胆振	0	0

普及センター		病葉率(%)	
		5 月	
		3 半旬	6 半旬
檜山 本所	本所	0	0
	北部	0	0
上川 本所	本所	0	0
	富良野	0	0
	大雪	0	0
	士別	0	0
	名寄	2.5	0
留萌 本所	本所	0	0

普及センター		病葉率(%)	
		5 月	
		3 半旬	6 半旬
網走 本所	本所	—	0
	清里	—	0
	網走	0	0
	美幌	—	2.4
	遠軽	—	0
	紋別	—	0
十勝 本所	本所	0	0
	東部	0	0
	東北部	0	0
	北部	0	0
	西部	0	1.3

注 1) —:調査時期外のため未調査

注 2) 病葉率:最上位葉の 1 枚下の葉の病葉率

C. 春まき小麦

1. ムギキモグリバエ 発生期 早 発生量 多

予察ほのすくい取りによる成虫の初発期は、長沼町で 5 月 17 日（平年：5 月 23 日）、比布町では 5 月 13 日（平年：5 月 22 日）といずれも平年より早かった。すくい取り数は、両地点ともに平年より多かった。

予察ほにおけるムギキモグリバエのすくい取り数

月・半旬	長沼町		比布町	
	本年	平年	本年	平年
5 月 4 半旬	1.3	1.3	7.5	10.0
5 半旬	37.5	1.0	90.0	28.0
6 半旬	40.0	3.9	145.0	42.5
平年数	4		7	

注)20 回振り×5 日分換算値

D. てんさい

1. テンサイトビハムシ 発生期 並 発生量 並

予察ほにおける被害の初発期は、長沼町では 5 月 1 半旬（平年：5 月 3 半旬）と平年より早く、芽室町では 5 月 4 半旬（平年：5 月 2 半旬）と平年より遅く、訓子府町では 5 月 4 半旬（平年：5 月 3 半旬）と平年よりやや遅かった。被害程度は、長沼町および訓子府町では平年並、芽室町では平年より低かった。

予察ほにおけるテンサイトビハムシによる被害程度

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5 月 1 半旬	9.0	1.1	—	2.9	—	1.0
2 半旬	11.0	3.1	—	4.0	0	0.9
3 半旬	14.0	6.5	0.0	6.0	0	5.1
4 半旬	23.0	13.2	0.5	9.0	5	11.1
5 半旬	26.0	19.8	2.0	11.2	21	16.9
6 半旬	25.0	26.0	5.5	13.3	26	20.2
平年数	10		10		9	

注) —は未調査

E. あぶらな科野菜

1. コナガ 発生量 少

フェロモントラップによる雄成虫の誘殺数は、長沼町および芽室町では平年より少なく、北斗市および訓子府町で平年よりやや少なかった。

フェロモントラップによるコナガ雄成虫の誘殺数

月・半旬	長沼町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5月1半旬	1	2.4	7	15.7	2	0.7	0	6.0
2半旬	16	11.2	38	24.8	1	2.2	0	6.5
3半旬	8	8.4	70	40.1	11	4.2	1	8.7
4半旬	10	33.6	49	52.0	2	8.3	12	7.6
5半旬	3	49.4	14	87.3	2	19.1	13	8.8
6半旬	14	83.5	28	66.2	2	24.2	7	10.6
平年数	10		10		10		10	

F. りんご

1. モニリア病 発生期 — 発生量 少

長沼町と余市町の予察園では、本病の発生は認められなかった。

一般園における巡回調査結果では、発生は認められていない。

予察園におけるモニリア病の初発期

地点	品種名	防除有無	葉腐れ		花腐れ		平年数
			本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	無	未発生	5月26日	未発生	5月28日	7
余市町B	つがる	有	未発生	5月24日			10
余市町C	王林	有	未発生	—			—

予察園におけるモニリア病の発生状況

地点	品種名	防除有無	調査時期	花葉叢率(%)				平年 数
				葉腐れ		花腐れ		
				本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	無	5 月 1 半旬	0	0.00	0	0.00	7
			2 半旬	0	0.00	0	0.00	
			3 半旬	0	0.00	0	0.00	
			4 半旬	0	0.12	0	0.00	
			5 半旬	0	0.40	0	0.12	
			6 半旬	0	0.46	0	0.67	
余市町 B	つがる	有	5 月第 1 週目	0	0			10
			第 2 週目	0	0			
			第 3 週目	0	0.18			
			第 4 週目	0	0.34			
			第 5 週目	0	0.06			
余市町 C	王林	有	5 月第 1 週目	0	—			—
			第 2 週目	0	—			
			第 3 週目	0	—			
			第 4 週目	0	—			
			第 5 週目	0	—			

一般園におけるモニリア病の巡回調査結果

普及センター		発病花葉叢数
後志	北後志	0
胆振	本所	0
渡島	本所	0
留萌	南留萌	0

注) 1 樹当たり発病花葉叢数、10 樹調査(開花直前)

2. ハマキムシ類 発生期 やや早 発生量 並

ミダレカクモンハマキ越冬卵のふ化最盛期は、長沼町で5月6日(平年:5月10日)と平年よりやや早く、余市町で5月3日(平年:5月10日)と平年より早かった。開花直前の被害花叢率は、長沼町で平年並であった。余市町では被害が認められなかった。

ハマキムシ類の越冬卵孵化状況と被害発生状況

地点	長沼町		余市町 A		余市町 B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
ミダレカクモンハマキ孵化最盛期	5月6日	5月10日	5月3日	5月10日		
開花直前被害花叢率(%)	10.0	6.8	0.0	0.2	0.0	0.3
平年数	10		10		10	

注)長沼町は無防除、余市町AおよびBは慣行防除

BLASTAM ならびに FLABS の運用について

今年も、水稻の葉いもち初発予測システム「BLASTAM(ブラムタム)」による広域発生期判定結果および、ばれいしょの疫病初発予測システム「FLABS(フラブス)」による予測結果を防除所のホームページに掲載します。

アドレス(<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>)または「北海道病害虫防除所」で検索してお入りください。

「BLASTAM」では、道内約50地点について、葉いもちの感染好適日を判定します。今年度の運用開始は6月20日頃を予定しています。

「FLABS」では、道内25地点の農作物生育状況調査ほ場(作況ほ)の萌芽日をもとに疫病の初発日予測を行います。

「BLASTAM」、「FLABS」とも随時更新していきますので、計画的な防除にお役立て下さい。

6月15日～8月31日は**農薬危害防止運動**実施期間です！

北海道では、農薬の使用に伴う事故・被害を防止するため、農薬を使用する機会が増える6月から8月を期間として、農薬の安全かつ適正な使用や保管管理等を推進する「**農薬危害防止運動**」を実施します。

北海道農政部生産振興局技術普及課
(TEL 011-231-4111 (内線) 27-838)
北海道病害虫防除所
(TEL 0123-89-2080)
各総合振興局・振興局農務課



北海道
平成28年6月15日～8月31日

■ 農薬使用に関する注意事項

- 農薬は、農薬取締法に定められた事項が表示されたもの、または特定農薬に該当するものを選び、有効期限内に使い切れる量を購入する。
- 農薬のラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を読んで、十分理解し、表示された濃度や使用量等を守り、必要量以上に農薬を調製しない。
- 散布作業前日は、飲酒を控え、十分な睡眠をとる。体調が優れないときや著しく疲労しているときは、散布作業に従事しない。
- 農薬の使用前には、防除器具等を点検し、十分に洗浄がなされているか確認する。また、農薬の使用後には、防除器具の薬液タンク、ホース、噴頭、ノズル等農薬残留の可能性がある箇所に注意して、洗浄を十分に行う。
- 農薬を散布するときは、必要に応じ、あらかじめ周辺住民等に周知するとともに、看板等を立てるなど現場に近づかないよう配慮する。
特に無人ヘリで防除する場合は、学校や病院等の公共施設及び近隣の住民等に対し、実施予定日時、区域、薬剤等についての事前周知に努める。
- 農薬の飛散による危被害を防止するため、近隣の住民、飼育されている家畜及び蜜蜂、河川等の周辺環境への影響に注意する。
特に無人ヘリで薬剤散布する場合は、有機農産物が生産されているほ場等に農薬が飛散しないよう注意する。
- 農薬の調製及び散布作業中は、マスク、手袋、眼鏡等を着用し、体を防護する。
- 散布作業後は、よくうがいをし、手や顔などの露出部だけでなく入浴し全身を十分洗う。

★ 農薬情報の掲載サイト

農薬の登録情報や農薬取締法等については、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)をご覧ください。

